

西濃農林事務所の普及活動状況

平成26年2月26日現在

今月の重点活動

■小麦 全国麦作共励会で日本農業新聞会長賞を受賞！

平成25年度（第40回）全国麦作共励会（集団の部）において、海津市の長久保営農組合が「日本農業新聞会長賞」を受賞し、2月19日に東京都で表彰式が行われた。

当組合は、暗渠排水整備に加え、明渠や弾丸暗渠の設置を行い、排水対策を徹底するとともに、土づくり、適期播種・追肥、防除徹底などの基本技術励行、計画的な水稻・小麦・大豆の2年3作ブロックローテーション実施、品目毎の団地化による大型機械の効率的利用を行っており、平成25年産小麦では、単収501kg/10a、労働時間3.1時間/10aを実現している。

農業普及課では、JAにしみのと協力して、当組合に対する継続的な小麦栽培支援を行ってきており、今後とも地域の小麦栽培の模範としての役割が期待されている。



【表彰に臨む組合代表】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 普及活動報告

1月31日に開催した「西濃農業の活性化をめざすセミナー」において、「ブロッコリーの生産振興にむけた取り組み」と題して、JAにしみのと連携して取り組んできた施肥改善及び新品種導入試験について報告した。

市場ニーズに即した1～2月の出荷を推進するため、ブロッコリーの生育に即した一発基肥施肥の改善結果とともに、低温下でも花蕾が肥大しやすい「おはよう」、「ともえ」2品種については、良好な結果が得られたことを説明した。これらの結果については、26年産の栽培に取り入れていくようJA、部会と検討しており、基肥一発肥料については、2月収穫品種には適さなかったため、次年度の課題として取り組んでいく。

売れる農畜産物づくり

■トマト 各トマト生産組織における研修会の開催

池辺園芸トマト組合は2月12日、海津トマト部会は2月14日に、研修会が開催された。2月～3月は、気象変動が大きく、特に的確な栽培管理が求められるとともに、灰色かび病の発生が増加する時期でもあるため、気象変動に対応した栽培管理と病虫害防除を重点に説明した。

池辺園芸トマト組合では、今回は現地圃場における研修も取り入れられ、積極的な意見交換が図られた。また、海津トマト部会では、栄養診断を行っている先進地視察報告を兼ねて、葉柄汁による窒素、リン酸、カリの分析結果等についても説明した。

■きゅうり 目揃会の開催

2月5日に半促成栽培の目揃会が開催され、これまでの生育状況や病虫害の発生状況、今後の栽培管理について説明した。

半促成栽培（12月定植）の生育は概ね順調で、キュウリ黄化えそ病は、昨年並みの発生に抑えられている。一部でミナミキイロアザミウマの発生が認められ、防除対策の実施について支援している。天敵（スワルスキー）の放飼は、2月18日から開始されている。

■いちご 研修会の開催

池辺苺組合では、各生産者がお互いの圃場を見学し合う圃場巡回研究会（1月28日）、海津いちご部会では、全体研究会（1月31日）が開催された。今年は、第2花房の出荷が平年より遅れており、頂果房と第2果房の間隔があいたこともあり、奇形果も多く発生している。農業普及課からは、厳寒期から向春期の管理に切り替えるタイミング等について説明した。

■牧園芸組合インゲン部会 栽培研修会の開催

1月21日に、牧園芸組合インゲン部会の栽培研修会が開催された。昨年は、天候不順の影響を大きく受け、出荷量、販売量ともに前年を大きく下回った。また、新規栽培者確保のため、加入案内チラシを広報誌へ折込するなど働きかけているものの、近年では個人でのファーマーズマーケットへの出荷も増えたこともあり、新規栽培者の確保にはつながっていない現状にある。

農業普及課では、少しでも栽培面積が減らないように、直播きでの発芽確保を重視し、セルトレイでの予備苗作成について指導をしている。

■かき 柿園の経営移譲支援

養老町果樹振興会員の優良柿園30aが、家庭の事情により管理できなくなったため、振興会内で管理できる農家を掘り起すこととなり、1月26日に役員立会いの下、柿園主と新たな管理者との間で、5年ごとに内容を見直す契約を取り交わした。

翌27日、役員、管理者、農業普及課とともに、引き受けた園の今後の管理方針について現地で検討し、やや混み合っていることから間伐を行い、随時高接ぎを行うことになった。



【接ぎ木部分の確認作業】

多様な担い手の育成・確保

■家族経営協定締結支援 見直し家族経営協定の調印式開催

2月17日に海津市役所において、トマト栽培農家の家族経営協定調印式が開催された。息子さんが就農し、本格的に経営に参画することを機会とし、今までの協定内容を見直し、働きやすい環境づくり、後継者へのスムーズな譲り渡しについて留意した協定内容となっている。

農業普及課では、協定書作成や調印に向けて、関係機関との連携など支援を行った。



【家族経営協定調印式】

■女性起業家活動支援 ひめこらぼ商品アピールコンペ出場

2月14日に、東京都内で開催された女性農林漁業者の全国ネットワーク「ひめこらぼ」のセミナーにおいて、海津市の女性起業家が、開発した商品をアピールし、アイデア賞に選ばれた。

農業普及課では、商品アピールコンペの応募から発表に亘り、助言・支援を行った。



【商品アピールコンペ参加者】

県民みんなで育む農業・農村

■かき 小学校柿園の粗皮削り支援

2月12日に、海津市立城山小学校柿園で、児童45人が粗皮削りを体験した。農業普及課から、粗皮削りをする理由、削る場所と方法について説明した後、各班に分かれて、持ち分の柿の粗皮を削った。粗皮削りで出てくる、樹幹害虫も観察するように指導した。自宅等に柿園がある児童が、15人ほどおり、今回の柿管理の経験を活かして、自宅等の柿管理を手伝うよう啓発し、今年度の柿園管理作業指導を終了した。



【児童の粗皮削り】

魅力ある農村づくり

■鳥獣害対策 鳥獣被害対策研修会の開催

2月19日に、養老町で県鳥獣害対策監の講演会が開催され、集落の絆で鳥獣被害を防ぐ平成の集落再生(里普請)を呼び掛けられた。被害対策支援が必要な集落を特定するため、参加した自治会長等にアンケート調査を行い、今後の支援方法の参考情報も収集した。